

学内広報

for communication across the UT



特集：

UT試薬サイト、発進！

余裕資金運用 —国立大学法人化から3年間の歩み—



2007.2.14

No. 1352

調達本部 です [拡大版]



石堂正信副理事

調達本部の Web発注システム 第二弾!!

UT試薬サイト

- 試薬メーカー各社のカタログ情報を掲載。
- Webで注文、商品は研究室へお届けします。

2月1日

<http://u-tokyo.siyaku.com/>

OPEN

【開発】
東京大学薬品管理システム
CHEMICAL SERVICE TOKYO
ケミカルサービス東京株式会社

環境安全 本部です

東京大学薬品管理システム UTCRIS

東京大学では化学物質類を管理するためのシステム、UTCRIS (University of Tokyo Chemical Registration Information System) が全学的に導入されています。このUTCRISはコンピュータによる管理システムで、ユーザーが危険な化学物質類を簡易に且つ安全に、そして適法に管理できるように支援するシステムです。このたびのUT試薬サイト運用開始とともに、UTCRISでは、UT試薬サイトで発注した情報をUTCRIS入庫画面に表示して入庫処理を行えるようになりました。最初に保管場所や購入者などの情報を追加することで、以後のアクセス時には再入力の手間が省けます。この機能は、UT試薬サイトでIDを取得し、発注情報を残したいUTCRISのIDで一度設定すれば、以降は再設定すること無く継続して発注データを取り込むことができます。詳しくはUTCRISログイン画面の「UT試薬サイト(19年2月公開)との連携について」をご覧ください。

https://utcris.adm.u-tokyo.ac.jp/CRIS_v1_0/index.aspx



このたび、学内で使用する試薬をWebで購入できるシステム、UT試薬サイトがスタートしました。これは、すでに始動しているUT購買サイトに続く新発注システムです。そこで今回は、石堂副理事を訪ねて、UT試薬サイトの立ち上げ経緯やシステム内容についてうかがいました。

長かった道のり

—— 試薬の Web発注システムがオープンしましたが、試薬の件は随分以前から話題にのぼっていたように思いますが。

石堂 そのとおりでして、試薬に関係の深い先生方に時間を割いて集まってもらい、東大で80億とも90億ともいわれる試薬販売のあり方について最初にご意見をうかがったのは2年も前のことになります。最初の発想は、学内で深夜まで研究活動が行われているようなので、年中無休・24時間体制で試薬を供給できる仕組みをつくったというものでした。

—— たしかに便利そうですね。

石堂 でもこれには先生方から賛否両論がありました。どうやら利便性だけの発想ではだめだったようで、深夜の実験自体が危険といった安全に関わる批判的なご意見を多く頂きました。試薬が「危険品」であるという認識を抜きには検討が進められないことがよくわかりました。

—— その辺が時間を要した原因だったのでしょうか？

石堂 調達本部が発足し調達改善重点分野のひとつとして試薬に取り組むことになりましたが、その後も「慎重に進めるべきだ」というご意見が強く寄せられました。そこで試薬に詳しい複数の先生が加わるWGを置いて、安全確保の視点から検討していただくという他の調達改善分野では見られない特別の対応がとられました。その結果、学内に置かれる試薬の中継拠点の稼働時間制限とか、サプライヤ自体による配達とか、サプライヤに様々な報告義務を課すといった具体的な安全対策が示され、それに沿ってその先のプロセスを踏むことになりました。

UT試薬サイトに60万品目

—— 長期間にわたる検討結果がUT試薬サイトということですが、Web発注システムとしてはUT購買サイトがすでにありますね。別サイトとした理由は何だったのですか？



UTCRIS トップページ



薬品入庫用ページ

試薬の製品番号やバーコードナンバーを読み込むことでユーザーは簡単に薬品を入庫登録することができます。さらに、保管する場所や仕入先、また部署独自のタグ付けなども追加でき、部署単位で便利に管理することができます。入庫された試薬には独自の番号が設定され、そのバーコードが発給されます。



石堂 まず、劇物・毒物も多く含まれる試薬ですので、発注行為を行う方がおのずと限定されます。パスワードを誰が取得すべきかというところすでにUT購買サイトとは別の管理が必要になります。また、試薬の圧倒的な品目数も問題でした。現在、UT購買サイトで扱っている文具・一般雑貨、パソコン・OA等は全部合わせて8万品目くらいと思いますが、試薬は50万から100万品目ともいわれる世界です。UT購買サイトに複数の試薬サプライヤが参加して比較購買を、というスタイルはこの点からも断念せざるを得ませんでした。UT試薬サイトでは、当面400以上のメーカーの試薬60万品目がカタログ化されています。

——— でも、Web発注の流れとしては、先行するUT購買サイトと同じと考えてよろしいのですか？

石堂 基本的には一緒です。ただ、試薬販売には「ご用聞き」といいますか、サプライヤが個々の研究室に出入りして情報交換することが欠かせないようです。試薬がWeb発注になってもこれはなくならないということで、UT試薬サイトではサプライヤが日々「ご用聞き」にうかがうことを前提に、サプライヤによる

「代理入力」という仕組みを取り入れてみました。また、購入データを財務会計システムに繋ぐだけでなく、17年度から稼働している薬品管理システム(UTCRIS)にも情報提供する点も特徴のひとつです。もうひとつ、Macintoshからもアクセスできるのも見逃せません。

期待される多面的効果

——— サプライヤの集約が実現したわけですが、どのくらい安くなるのですか。また、サプライヤが1社では、いわゆる「独占の弊害」が出てきませんか？

石堂 一律何%下がるというわけにはいかないのですが、集約効果を反映した東大向け特別価格がカタログに表示されます。試薬の販売価格については、様々な形で情報が得られるようですから、カタログ価格が他に比べて高ければすぐに批判を浴びるでしょう。調達本部としても価格モニターはある程度可能と思っていますので、余り心配していません。むしろ、UT試薬サイトの開業によって、このシステムの外で売買を続けようとする他の試薬サプライヤの価格にも影響が及ぶ可能性がある

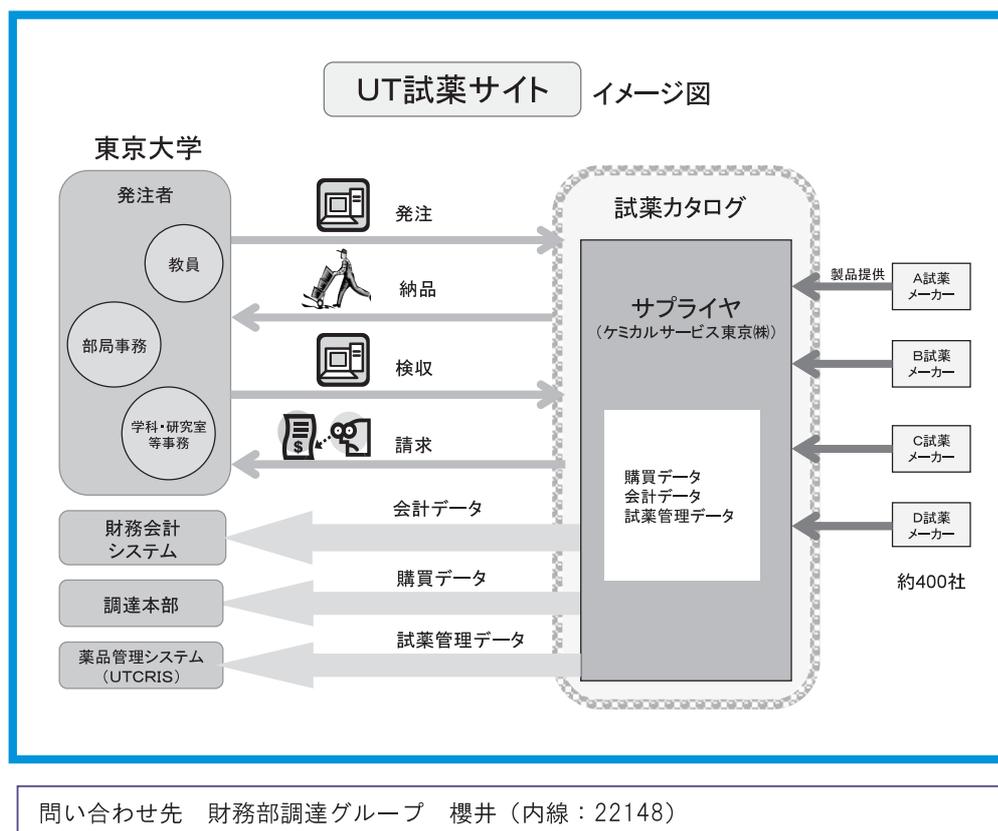
と思っています。

——— キャンパス内に中継拠点が設置されたと聞きましたが。

石堂 場所の確保が簡単でないこともあって中継拠点は本郷キャンパスだけなのですが、従来「理学部A棟」といわれた建物です。ここに、特に使用頻度の高い試薬を一定量確保しておくことで、迅速な配達が可能になると期待しています。

——— 東大のWeb発注システム第2弾といったところですが、調達本部として、この「UT試薬サイト」を全学にどう売り込みますか？

石堂 このサイトに発注を集約すればするほど、価格面でさらに良い循環が得られますし、UTCRISと連携していますので薬品管理の充実も図られます。また、他大学の科研費不正使用問題から、物品購入をめぐる透明性確保が新たな課題となっていますが、Web発注は「発注から検収まで」全データが保存されますので、この面でも大きな効果を発揮します。経費節減、安全性確保、プロセスの透明化といった大学が直面する課題に多面的に対応するUT試薬サイトです!とりたいですね。



2004年の国立大学法人化によって、各法人が独自に余裕資金を運用することができるようになりました。毎年、運営費交付金が削減されている現状では、この余裕資金をどれだけ運用できるか？ということ是非常に重要な課題となっています。そこで、法人化から3年間の余裕資金運用の歩みとその実績についてご紹介します。



2004.4
国立大学法人化

法人化とともに

法人化前、国の機関だった東京大学の資金は「国庫」に在り、国が管理していました。法人化とともに、東大の資金管理は東大自身が行なうことになったわけで、余裕資金の運用は法人化によって生まれた新しい業務です。大学は伝統的に部局自治の考え方が強いのですが、法人化の直前に、法人化後は東大の保有資金全てを本部が一括管理することについて全学の同意が得られました。東大が法人化とほぼ同時に資金運用をスタートさせることができたのは、この資金一括管理体制があったからだといえます。

初めての運用

法人化初年度の平成16年4月、現金残高は把握できたのですが、それが年度途中でどのような展開を見せるかについては、はなはだ自信がありませんでした。資金計画無しに資金運用することはできません。

ただ、国の機関だった時代に「委任経理金」といわれ、法人化時に東大に承継された「寄付金」が150億円ほどあり、その残高はここ数年あまり大きくは変動していないとわかりました。そこで、大きく「安全率」をかけ、ともかく90億円を長期運用することにしました。これが東大における余裕資金運用の始まりです。

運用への法規制

ご存じとは思いますが、国立大学の余裕資金の運用方法は法律で厳しく制限されています。法律には、国債、地方債、預金・貯金、金銭信託等が限定列挙されており、元本保証のある安全第一の運用方法に限る趣旨と理解されます。従って、東大で初めての長期運用は国債の購入ということになりました。当時は、歴史的低金利といわれた時期でしたので、長期とはいっても10年といった余り長いものは避け、なおかつ5年、3年、2年ものに3分割してリスクの分散を図りました。

運用益の学内配分

運用対象の余裕資金ですが、その原資は寄付金とそれ以外に大別されます。寄付金は、基本的に各部局の努力によって得られるものです。運用開始にあたり、運用業務にあたる本部と原資となる寄付金獲得に努力する部局との間で運用益を折半することで合意が得られました。部局別の配分は、過去5年間の部局別寄付金残高の構成比によることとされ、年度末までの見通しが得られた段階で予算配分を実施しました。

一方、平成18年度に長期運用が拡大された部分は、交付金等々の財源であり部局別貢献度合の計測が難しいと考えられたため、その運用益は全額本部に保留して全学のために活用することで合意が得られています。

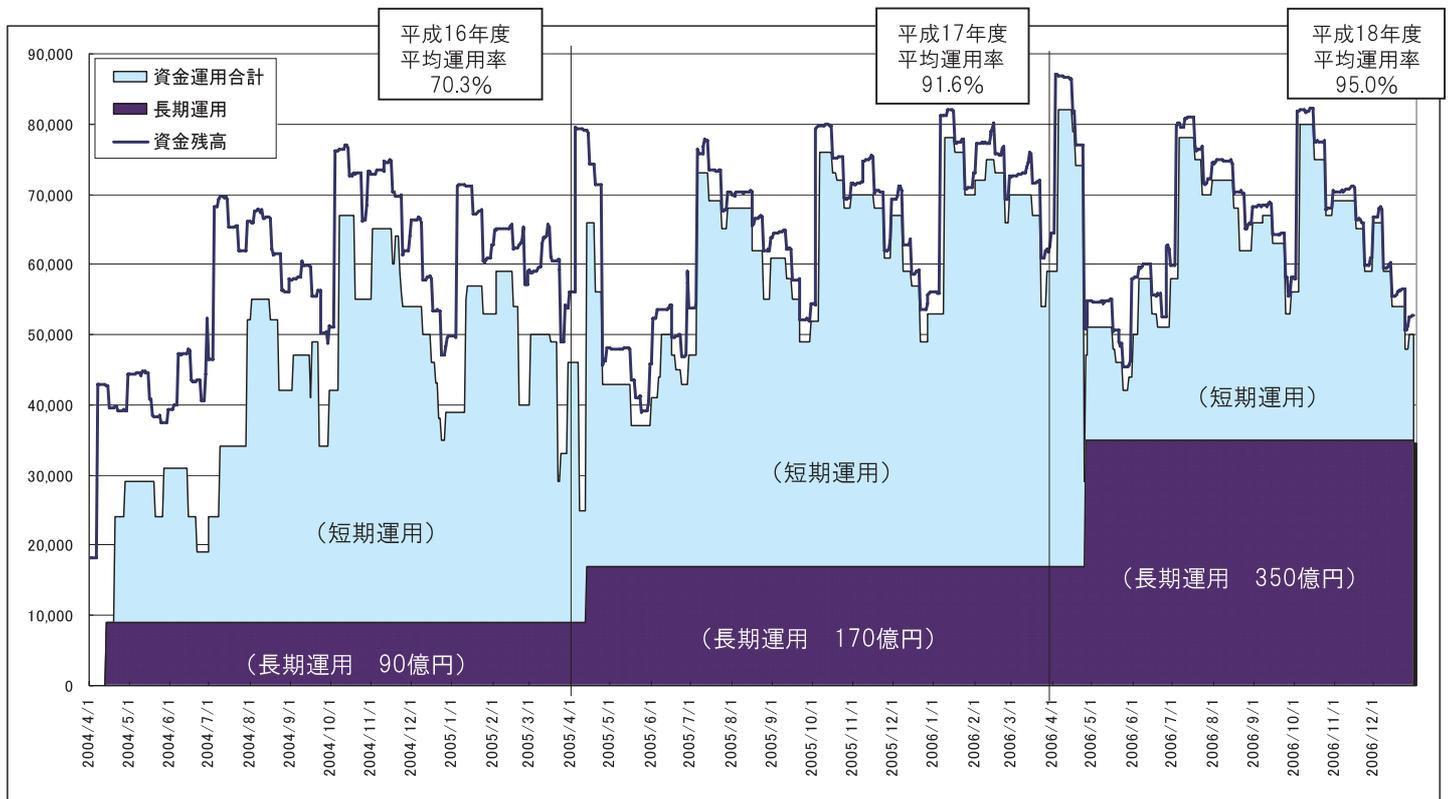
委任経理金・寄付金・基金

国の機関だった時代、東大への寄付金は一度国庫に入り、それから東大に回付されて来ました。国が東大に寄付金の経理事務を委任する形となることから「委任経理金」という名称が使われました。法人化後は、もちろん寄付金は直接東大に納入されています。

なお、東大では法人化後「東京大学基金」を設立しました。基金は、寄付金自体は支出せず、その運用益を事業に当てることを趣旨としており、エンダウメント (endowment) と呼ばれます。これまで基金に寄せられた寄付金は別管理されており、本稿で扱った寄付金には含まれていません。

運用益の推移 (単位：百万円)

	16年度	17年度	18年度 (見込み)
長期運用	27	67	170
短期運用	20	23	90
合計	47	90	260



平成16年度
運用の成果

さて、長期運用開始から少し遅れて、年度内の資金残高の波動を予測しながら短期（1年以内）の運用も始められました。予測といっても国の時代の収入・支出動向を参考にするしかなく、全体にはどうしても保守的な運用とならざるを得ません。こちらでも、法律に基づき短期の国債、定期預金が多様な運用商品となりました。このように、長期・短期とも手さぐり状態でしたが、法人化初年度、4千7百万円の運用益を得ることができました。

結果からみれば、利率のよい長期運用がもっと大きくてもよかったですこととなります。

平成17年度
長期運用の拡大

法人化2年目の平成17年度には、前年の実績から東大の資金残高の構成、また年間の資金収支動向がある程度見えてまいりました。寄付金に関しては、16年度の新たな入金70億円程度、これに対して寄付金の残高は200億円程度。つまり、東大の場合寄付金は入金から支出まで総平均すると3年程度滞留しているようだと判断できました。そこで、思い切って新たに80億円を長期運用することとし、長期運用を一挙に倍加させました。短期運用についても、前年の経験を活かして積極的な運用をこころがけ、法人化2年目は9千万円の運用益を得ることができました。

平成18年度
長期運用のさらなる拡大

3年目。法人化後まる2年間の実績は、東大の資金事情が非常に堅調であること、また、年度中間の資金残高の動きもまた非常に安定していること教えてくれました。更に、交付金など寄付金以外の財源についても、一部は年度を超えた運用が可能ということがわかりました。そこで、さらに170億円の長期運用を設定することとしました。長期運用の額は合計350億円と法人化スタート時の4倍ほどになったわけです。短期運用もやや金利が上昇したこともあって好調に推移し、平成18年度は2億6千万円ほどの運用益を見込める状況になっています。

運用益

部局

本部

平成19年度は…

法人化から3年、余裕資金の運用額・運用率は年々高まり、運用益の額も「倍、倍」と順調に増えて参りました。ただ、3年間の資金残高推移から見ますと、350億円の長期運用を大幅に増やすことは、寄付金の著しい増大でもない限り難しそうです。そこで資金計画の精度をさらに上げて少しでも運用額を増やすこと、更新時期を迎える長期運用について法の範囲内で新たな商品選定を行なうことなどを考慮中です。迎える19年度は、何とか「運用益3億円の大会達成」を目指したいと思っております。また19年度は、資金運用の年度計画に基づいて、寄付金部分に係る運用益を年度首に各部局に配分することにしてあります。

問い合わせ先：財務企画室 高橋（内線：21203）

NEWS

一般ニュース



学生部

平成19年度外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる

平成19年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付は、第1種が12月11日（月）、第2種が11月10日（金）に締め切られた。

志願者は、第1種（外国人）93人、第2種（日本人）128人、合計221人で前年度より34人増であった。

また、その後行われた第1次選考の結果、外国学校卒業学生特別選考第2次学力試験の受験者数が確定し、2月上旬に各人あて通知された。

外国学校卒業学生特別選考第1次選考結果

科類	第1種（外国人）		第2種（日本人）	
	志願者数	第1次	志願者数	第1次
文科一類	6	3	27	14
文科二類	27	7	32	11
文科三類	12	4	31	10
理科一類	35	11	16	9
理科二類	13	3	19	15
理科三類	0	0	3	1
合計	93	28	128	60

なお、志願者の種別の人数、国籍等（第1種）及び修学先の所在国名等（第2種）の内訳は、次のとおりである。

【第1種】

中国	61人
韓国	19人
台湾	2人
マレーシア	3人
インドネシア	2人
ベトナム	3人
モンゴル	1人
ネパール	1人
サウジアラビア	1人

合計 93人

【第2種】

アメリカ	51人	ニュージーランド	4人
イギリス	12人	タイ	1人
オーストラリア	10人	オランダ	3人
フランス	4人	イタリア	1人
ドイツ	3人	ミャンマー	1人
カナダ	3人	スウェーデン	1人
シンガポール	3人	スイス	1人
インドネシア	2人	チェコ	1人
スペイン	2人	オーストリア	1人
中国	11人	ブラジル	1人
台湾	2人	ベトナム	1人
韓国	3人	インド	1人
フィリピン	2人	南アフリカ	1人
ベルギー	2人		

合計 128人



環境安全本部

「防災シンポジウム」開催される

1月17日（水）14時30分から、「本郷消防署 防災シンポジウム」が、本学農学部 弥生講堂にて開催された。

このシンポジウムは、阪神・淡路大震災（平成7年1月17日）によって創設された「防災とボランティアの日」（毎年1月17日）の関連行事として、地域の「自助・共助」精神の醸成、防災意識の高揚及び行動力の向上を目的として、本郷消防署によって企画されたものである。首都直下型地震の発生が危惧されるなか、文京区内においても、消防団、町会、自治会、自主防災組織や災害時ボランティア等を含めた地域一体の取り組みが求められている。

当日は、旧山古志村村長の長島忠美氏（現・衆議院議

員) から、新潟県中越地震(平成16年10月23日)における、住民の「自助・共助」による地震被害の軽減に向けた実際の取り組みが、基調講演(「中越地震発生!そのとき山古志村の人々は」)のなかで紹介された。次いで、文京区の地域防災に向けた取り組みが、向ヶ丘一丁目中町会、千駄木二丁目西町会、丸山福山町町会、根津富永町会から発表され、本学環境安全本部からも「文京区における東京大学の防災への取り組み」として、「大規模震災時における東京大学の重点対応」、「東京大学としての地域協力活動」、「平成17年度 本郷消防署との活動実績」等の報告を行った。

なお、参加者数は一般の聴講者を中心に本学教職員及び学生等を含め約380名に達し、会場となった弥生講堂では一時、立ち見が出るほどの盛況となり、このトピックスに関する学内外の関心の高さをうかがわせた。



旧山古志村村長 長島忠美氏(現・衆議院議員)



本学の防災活動についても質問が寄せられた

環境安全本部
「文化財防火デーに伴う消防演習」
実施される
一般

1月26日(金)10時から10時30分まで、「文化財防火デーに伴う消防演習」が、本学本郷キャンパス赤門にて、東京消防庁本郷消防署、付近消防団、東京大学との共催により実施された。赤門での演習は、昨年度に続き2回目である。

今回の東大赤門における演習は、受験生が赤門から出火しているのを発見し、自衛消防隊による初期消火では対応できずに、赤門が延焼拡大したという想定で行われた。本郷消防署からは、ポンプ車3隊、はしご車1隊、指揮隊1隊、消防団隊1隊が出動し、一斉に放水を行った。赤門の壁面や屋根に水を直接かけることはなかったが、赤門上空には9口の放水体系による水幕が見事にかたちづくられた。

なお、「文化財防火デー」は、昭和24年1月26日、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺(奈良県斑鳩町)の金堂で火災が起き、白鳳時代に描かれた十二面壁画が焼損したことをきっかけに、昭和25年に文化財保護法が制定されたことに始まる。以来、毎年この日を中心に、文化庁と消防庁が連携・協力して、全国各地で消防演習等の文化財防火運動を展開している。今年で53回目を迎える本演習は、国宝の興福寺五重塔(奈良県奈良市)、重要文化財の本門寺五重塔(東京都大田区)等で実施され、本郷消防署の管区内では、東大赤門のほか、「吉祥寺」(文京区本駒込)や「湯島天神」で、同様の消防演習が行われた。東大赤門は、文政10年(1827)建立の旧加賀藩屋敷御守殿門であり、昭和6年に国宝指定されている(現在は重要文化財)。



赤門に向けた一斉放水



初期消火後、通報に走る自衛消防隊員



法隆寺金堂壁画のデジタル画像による再現
総合研究博物館ホームページより

http://www.um.u-tokyo.ac.jp/DM_CD/DM_CONT/HORYUJI/HOME.HTM

サステナビリティ学連携研究機構
国際シンポジウム・公開シンポジウム開催される



2月1日(木)～2日(金)小柴ホールにおいて、サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)、国際研究型大学連合(IARU)共催による国際シンポジウム"The Evolution of Sustainability Science - Energy, Resources and Environment"が開催されました。

15以上の研究発表があり、100名を超える国内外からの参加者から活発に質問や意見が出され、白熱した議論が繰り返されました。



国際シンポジウム(小柴ホール)

2月3日(土)13時から安田講堂において、サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)、日本経済新聞社、国際研究型大学連合(IARU)共催による公開シンポジウム「資源と環境が支える地球と人類の未来」が、東京大学創立130周年記念事業の一環として開催されました。



奥田碩トヨタ自動車株式会社取締役相談役

小宮山総長の趣旨説明に引き続き、産業界から奥田碩トヨタ自動車株式会社取締役相談役、政・官界から川口順子参議院議員、海外からGarry Brewer(ゲリー・ブ

ルーワー) イエール大学教授を招き基調講演を行ないました。



川口順子参議院議員

シンポジウム後半では「資源・エネルギーから考える持続可能な未来社会」と題したパネル討論を行ない、討論の最後には会場からの質問にパネリストが答える時間も設けることができました。

住明正教授・TIGS統括ディレクターからの挨拶で閉幕となりました。



パネル討論

1100名を超える聴講者があり、満席の大盛況でした。ほとんどの方が最後まで席を立たず、地球温暖化問題に象徴される「サステナビリティ学」に関する関心が非常に高いことが分かりました。

また、シンポジウムでは、サステナビリティ学連携研究機構の活動を紹介するポスター展示や前日(2月2日)に発表されたばかりのIPCC(気候変動に関する政府間パネル)第4次評価報告書に基づく、「気候の安定化に向けて直ちに行動を!—科学者からの国民への緊急メッセージ」(IR3Sホームページ参照)も参加者全員に配布されました。



IR3Sの活動についてのポスター展示

《公開シンポジウムプログラム》

趣旨説明

小宮山 宏 東京大学総長・IR3S機構長

「サステナビリティ学の世界的研究拠点形成を目指して」

基調講演

奥田 碩 トヨタ自動車株式会社取締役相談役

「産業界における資源・エネルギー問題とサステナビリティ」

川口 順子 参議院議員・元外務大臣・元環境大臣

「もっと環境先進国へ～私からの提案～」

Garry Brewer (ゲリー・ブルーワー) イエール大学教授

「未来を創る：持続性へのシナリオ構築」

総合討論

「資源・エネルギーから考える持続可能な未来社会」

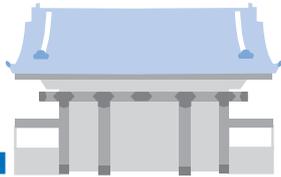
パネリスト：松尾友矩東洋大学学長/Peter Wilderer (ピーター・ウィルダラー) ミュンヘン工科大学教授/Leena Srivastava (リーナ・スリバスタバ) エネルギー資源研究所(TERI)エグゼクティブディレクター/Garry Brewer (ゲリー・ブルーワー) イエール大学教授

モデレータ：武内和彦教授・IR3S副機構長

国際シンポジウム・公開シンポジウムの詳細は、サステナビリティ学連携研究機構ホームページで近日公開いたします。

<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/>

部局 ニュース



大学院工学系研究科・工学部

東大・東工大共催博士課程学生交流
セミナー開催

12月19日（火）本郷キャンパス山上会館において、東京工業大学と共催で、博士課程学生交流セミナーが開催された。

本セミナーは、文部科学省特色ある大学院教育支援プログラム「コアリッションによる工学教育の相乗的改革」の支援を受けて、学生により企画・運営されているセミナーである。博士課程学生間の専攻と大学を超えた人的交流関係を構築し、各専攻・大学で進められている先端的取組、学術研究等に関わる根幹的な情報の交換を行うと同時に、多面的なモノの見方の醸成、学術研究などへの刺激、国際化への関心の相互触発などを目指すイベントである。

当日は、東大、東工大からそれぞれ参加した博士課程学生35名と教員18名に加えて、産業界から13名の参加者を招いた。基調講演として、小野京右東京工業大学名誉教授と鈴木浩GE Infrastructure Energy技監の御二方にお話を伺ったほか、「科学技術創造立国の実現に向けて」というテーマを設定して、グループ討論が行われた。

小野京右名誉教授による講演では、「工学部博士課程学生に期待するもの」という題目で、主体性や専門力の重要性などを伺った。鈴木浩氏による講演では、「イノベーション創出に向けて皆さんに期待すること」という題目のもと、イノベーションやリーダーシップに関するお話を伺った。

また、グループ討論では、参加者が6グループに分かれて、科学技術創造立国実現に向けて不可欠であると考えられる「研究倫理」、「コミュニケーション力」、「研究力」、「リーダーシップ」、「教育」、「産学連携」という小テーマを設定して、双方向的な雰囲気活発な議論が展開された。

現在、来年度のセミナーを企画する幹事を募集しているので、他分野学生との交流に興味のある方は、以下のメールアドレスに連絡を頂きたい。

E-mail : phd_forum@eis.t.u-tokyo.ac.jp



全体会での様子



グループ討論の様子

大学院情報理工学系研究科

実世界情報システムプロジェクト
最終デモンストレーションを実施

1月10日（水）、実世界情報システムプロジェクトが報道関係者向けの最終成果デモンストレーションを実施した。

実世界情報システムプロジェクトは、超ロバスト計算原理プロジェクト、大域ディペンダブル情報基盤プロジェクトとともに21世紀COE拠点プログラム「情報科学技術戦略コア」に所属している。大学院情報理工学系研究科ならびに大学院工学系研究科精密機械工学専攻の研究室が本プロジェクトに参加し、ロボットやエージェントによって人間の行動を多面的に支援する統合的な環境の研究開発を共同で進めてきた。

本年度は実世界情報プロジェクトの最終年度に当たり、今までの成果を統合した「実世界ショールーム」を実際に構築した。実世界ショールームには、ヒューマノイドロボットやVRシステム、エージェントシステムなど、多種類のロボットや情報システムが存在する。それ

らの要素が互いに協調し、人間の状態に合わせてその人の行動を臨機応変に支援する様子を実演した。



デモンストレーション風景



温室見学



ドリアンを切る様子を覗き込む参加者



修了証書授与

大学院理学系研究科・理学部



ひらめき☆ときめきサイエンス
「熱帯植物の不思議をさぐる」
開催される

大学院理学系研究科では、附属植物園及び生物科学専攻が中心となって、日本学術振興会の平成18年度「研究成果の社会還元普及事業 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に応募し、1月14日（日）、「熱帯植物の不思議をさぐる」を開催した。

本プログラムは、基盤研究（A）「石灰岩地域における日華区系植物の多様化と分化」（平成9～11年度）同「南ヒマラヤ地域の植物多様性」（平成13～16年度）、国際学術研究「熱帯植物の異時性に関する進化的研究」（平成7～9年度）などの成果の社会還元の一環として、中学生・高校生を対象として計画した。

プログラムは次のとおりである。

●講演・スライド

邑田 仁

熱帯地域でのフィールド調査と熱帯植物の特徴

塚谷裕一

熱帯植物の葉の形態進化とその遺伝的背景

●温室見学

●熱帯の果物試食・フリートーク（クッキータイム）、 未来博士修了証書授与式

参加者は父兄を含め、12校から24人であった。参加者のアンケートによると、大変好評で「知らない植物がいっぱいあって驚いた。勉強になった」「また参加したい」という回答が多く寄せられた。

スライドを使っでの講演には、「バナナがコウモリ媒花の種類の一つだとは知らなかった」「先生の発見した新種の植物や食虫植物の話等はとても魅力的だった」、温室見学では、「今まで見たことのないような植物がたくさんあっておもしろかった」「温室の中の植物の多さに驚いた」、クッキータイムには、「熱帯の植物を食べたり、見たり、さわったりできたので熱帯の植物に興味を持ったり、知ることができた」「ミラクルフルーツやドリアンという果物を初めて見て興味が沸いた」などの感想が寄せられている。

プログラムの最後には、東京帝国大学から明治39年に出版された「大日本植物志」（植物図と記述は牧野富太郎による）第1巻第3集の表紙の図柄を使った修了証書が参加者に授与された。

総合研究博物館

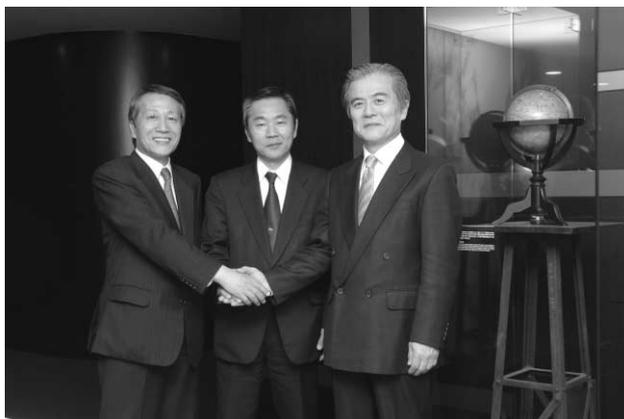
『モバイルミュージアム』始動

部局

総合研究博物館は、興和不動産株式会社の支援を得て、1月17日（水）から東京都港区の「赤坂インターシティ」1階オフィス・エントランスホールにおいて「モバイルミュージアム001」の展示を開始した。

初日の1月17日（水）には名倉三喜男興和不動産株式会社代表取締役社長、小宮山宏総長をはじめ藤井博英副理事、林良博総合研究博物館長、担当教員の西野嘉章教授らの出席のもと、オープニングセレモニーが行われた。

モバイルミュージアムとは、博物館に収蔵されている学術標本を小型ミュージアム・ユニットに組み入れて、社会の様々な場所に展開・流動させる日本初の遊動型博物館である。第1回目として行われる「赤坂インターシティ」での展示では、マゼランペンギンの骨格標本や水圏に関わる動物学標本、金塊レプリカ等が展示されている。3年間の展示を予定しており、半年ごとに展示品を入れ替える。



興和不動産本社にて（左より）名倉社長、林館長、小宮山総長

「モバイルミュージアム001」

公開：月～金曜日の9:30～18:00 土日祝日は閉館

会場：赤坂インターシティ（港区赤坂1-11-44）

東京メトロ溜池山王駅13番出口から徒歩2分

詳細：<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/>

東洋文化研究所

東洋文化研究所シンポジウム 第2回アジア古籍保全講演会を開催

部局

1月23日（火）10時30分より、工学部2号館大講堂において、東洋文化研究所シンポジウム「第2回アジア古籍保全講演会」（創立130周年記念事業）が開催された。東洋文化研究所の蔵書を始め、学内、学外に現存する貴重な古籍コレクションの保全対策は重要かつ緊急の問題であり、本講演会はこの課題に取り組む関係者の意識向上とスキルアップを目指したものである。昨年度に引き続き2回目の開催となった。

午前の部は、関本照夫教授（本研究所長・汎アジア部門）による挨拶に引き続き、「漢籍・中国書の劣化調査と補修」として、本研究所蔵漢籍（叢書部）に対する劣化状態悉皆調査の中間報告が行われた（報告者：木部徹氏<（有）資料保存器材>）。現時点までの調査では虫損・カビ等の被害はほとんど見られず、大半が通常の利用には問題のない良好な状態だということであった。

続いて「アジア近現代資料の保存と利用」として、小島浩之氏（経済学部図書館資料室助手）により、経済学部所蔵資料に対する図書館・資料室・文書室による保存の取り組みについて報告が行われた。特に最近の成果として環境対策やマイクロフィルムの劣化調査を取り上げ、保存計画を検討する際の基本姿勢等についても話題が及んだ。

午後の部では、周崇潤氏（中国国家図書館善本特蔵部図保組組長）により、「中国古籍の保全と修復」と題して中国国家図書館の資料保全の状況についての講演が行われた（通訳：橋本秀美北京大学歴史系副教授）。古籍の保護及び修復に関する技術的な紹介と科学的な研究成果の応用状況について、敦煌遺書や「永楽大典」等個別資料の修復状況も交えた実に幅広く精細な紹介があった。

次に、「書籍・資料のカビとその対策」として、木川りか氏（東京文化財研究所保存科学部主任研究官）により、IPM（Integrated Pest Management:総合的有害生物管理）の見地から、図書館にとって悩みの種であるカビの問題についての講演が行われた。カビ対策は、湿度調整等の環境管理によりそもそも発生させないことが肝要であるという基本的考え方や、人体へのカビの影響について、さまざまな機関での豊富な対策事例を交えて解説があった。

鎌田繁教授（本研究所副所長・西アジア部門）の司会で行われた総合討論では、会場から寄せられた多数の質問を下地に、各報告・講演の補足説明と活発な意見交換が行われた。

図書室企画による本講演会は、前回の好評を受けて継続開催が実現したものである。研究所の改修工事を控え蔵書移転作業の合間を縫っての慌しい開催となったが、日程がおよそ5時間半という長丁場にもかかわらず、学

内、学外の大学や図書館等から計177名の参加者を得て、今回もまた予想以上の盛会となったことは関係者一同喜びに耐えない。聴講者、講師陣、またご協力いただいた創立130周年事業関係者、会場をご提供くださった工学系研究科関係者各位にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。



会場の様子



講演者・報告者全員による総合討論

生産技術研究所
「第4回東京大学学生発明コンテスト」開催される

1月24日（水）16時30分から、駒場キャンパスのファカルティハウスにて「第4回東京大学学生発明コンテスト」の表彰式が行われた。このコンテストは、学生が発明や知的財産権に対する理解を深めることを目的に、生産技術研究所・産学連携委員会（委員長：桑原雅夫教授）と財団法人生産技術研究奨励会（TLO）の主催で企画されたものである。東京大学の学生を対象に平成18年7月3日から同9月29日まで応募を受け付けた。応募された発明は、その発明の斬新さや書類の完成度などを基準に書類審査を行い、11件を本審査の対象とした。本審査は大学の教員の他に、弁理士、TLO職員をはじめとす

る知的財産を取り扱う専門家の協力のもとに、12月26日（火）に行われた。発明者である学生のプレゼンテーションとそれに対する質疑応答の後、発明の新規性・着想や産業財産権としての価値、技術レベルや、先行技術との差異を明確に示しているかなどのプレゼンテーションの内容の評価も加えて選考を行い、9件に絞り込み、最優秀賞（1件）、優秀賞（2件）、アイデア賞（1件）、奨励賞（5件）の授与候補者が選ばれた。

表彰式は、前田正史生産技術研究所長による挨拶、藤田隆史産学連携本部長による来賓のご挨拶の後に、受賞者に対して各賞の表彰状、楯、副賞が贈呈された。最優秀賞は、「独自操作可能な実験動物用保定器（①筋肉注射②尾動脈注射・採血用）」を発明した農学生命科学研究科獣医学専攻博士4年の李禎翼（イー チョンイック）君、優秀賞は、「オートリバーシ」を発明した工学系研究科航空宇宙工学専攻修士1年の千蔵真也君、および「多ニューロン画像法～脳の活動を映画のようにとらえる～」を発明した薬学系研究科生命薬学専攻修士2年の佐々木拓哉君に授与された。表彰後、桑原雅夫審査委員長により発明に対する講評が述べられ、続いて受賞者を代表して李禎翼君が挨拶をし、記念撮影の後、記者会見および懇談会が行われた。



記念写真

本コンテストは、柔軟な思考を持つ学生が自らの発明を文書化してアピールし、かつ権利主張を行うトレーニングの機会を与える「教育プログラム」として企画されている。日常のふとした思いつき、趣味の世界から最先端研究に至るまで、あらゆる分野を対象として、斬新なアイデアの積極的応募を期待している。さらに、応募された発明の中の特に優秀な発明に対しては、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）が特許出願までサポートすることを用意している。

この発明コンテストは、第4回を数え、応募者の所属も、工学系はもとより、理学系・農学生命科学系・医学系・薬学系と広く理系全般、さらには文科系へと広がり、東京大学の学生発明コンテストとして全学で認知されつつあるところである。今後、「発明コンテスト」により多くの学部学生や大学院生が応募することにより、発想を特許という形のあるものにつなげる意識の輪が学内に広がることを期待している。

本コンテストの詳細は、発明コンテストのホームページ (<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>) に掲載されている。

第4回東京大学学生発明コンテスト※1

受賞者一覧 (所属・学年は平成18年9月現在)

最優秀賞

李 禎翼 (農学生命科学研究科獣医学専攻・博士4年)
「独自操作可能な実験動物用保定器
(①筋肉注射②尾動静脈注射・採血用)」

優秀賞

千蔵 真也 (工学系研究科航空宇宙工学専攻・修士1年)
「オートリバーシ」

優秀賞

佐々木 拓哉 (薬学系研究科生命薬学専攻・修士2年)
「多ニューロン画像法
～脳の活動を映画のようにとらえる～」

アイデア賞

代継 富実偉 (工学系研究科原子力国際専攻・修士2年)
「コントローラブル生分解性プラスチック」

奨励賞

田中 陽 (工学系研究科応用化学専攻・博士2年)
「鉛細工モールディング」

奨励賞

與儀 剛史 (工学系研究科物理工学専攻・博士2年)
「電気泳動・動的光散乱法」

奨励賞

伊東 利郎 (理学部情報科学科・4年)
「同期式パイプラインSRAM (SSRAM) の低遅延読み出し方式」

奨励賞

柏木 謙 (工学系研究科電子工学専攻・博士3年)
「効率的カーボンナノチューブ光デバイス作製法」

奨励賞

軍司 怜
(学際情報学府学際理数情報学コース・修士1年)
「超柔軟要素を用いた3次元表面ディスプレイ」

※1：総応募件数19件 (第1回は20件、第2回は22件、第3回は20件)、詳細は発明コンテストのホームページ (<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧下さい。

東京大学ソマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査団
「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元シンポジウム ―アウグストゥスの別荘?または神域?―」開催

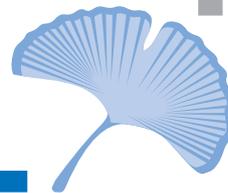
東京大学130周年記念事業の一環として、2月11日(日)に、本学理学部小柴ホールにおいて、「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元シンポジウム ―アウグストゥスの別荘?または神域?」と題する国際シンポジウムが実施された。

これは東京大学を中心とする研究チームが2001年よりイタリア・カンパーニア州ソマ・ヴェスヴィアーナにおいて実施している、ローマ時代遺跡の発掘調査を中核とした学際的研究プロジェクトの研究結果発表の一端であり、今回も、内外から多数の研究者が参集し、考古学、歴史学、美術史学、建築学、火山学、地理学、植物学、環境学、計測工学、土木工学など、様々な視点からの成果が発表され、一般聴衆130名を含む、約160名の参加者の下、活発な論議が交わされた。



研究発表風景 U. Pappalardo教授 (ナポリ大学)

キャンパス ニュース



学生部
東京大学運動会航空部、関東大会にて初の個人優勝

昨年12月17日～23日に埼玉県熊谷市で行われた第22回関東学生グライダー競技会で、本学運動会航空部・尾松俊 (おまつ・たかし、工・4年) 選手が個人の部で優勝を果たした。関東大会で東大選手が優勝を飾るのは史上

初めて。

学生グライダーの競技は三角場周が基本であり、滑空場を含む規定された3点を回った時間を競う。エンジンのないグライダーが長距離を滑空するためには高度の獲得が不可欠であり、滑空技術に加え気象を読む力、上昇気流を掴む腕も要求される。

大会出場したグライダーは、SZD51-1 Juniorと呼ばれる機体。スタンダードクラスという競技向けの高性能機での出場もあるなか、その下のクラブクラスとして規定される機体での参戦となった。



出場機体および尾松選手

関東大会中は天候に恵まれず、グライダーで飛ぶ上で必要不可欠な上昇気流が乏しい状態が続いた。そんな中、大会4日目にして尾松選手はわずかなチャンスを掴み、全ての規定ポイントを回っての滑空を決めた。飛行点数は満点の1,000点だった。この滑空が大会を通じてただ1回の周回となり、結果として他の選手と大きく点数を引き離しての優勝となった。



大会4日目、尾松選手2回目のフライト。
全参加選手中唯一の周回

この大会により東大チームは第47回全日本学生グライダー競技選手権大会の出場権も同時に獲得した。同大会は、3月に埼玉県妻沼滑空場にて行われる。

サステナくん、その後

岸本登志雄

サステナビリティ学連携
研究機構 特任専門員

IR3Sの広報誌『サステナ』の表紙でおなじみとなったサステナくん、ひよいと構えたポーズも、すっかり板についてまいりました。最新号で披露してくれたのは、さて、何をしているところでしょうか？

『サステナ』といえば、茫洋としたこの姿を思い出すくらいまでになったサステナくんではありますが、もとはといえば、急遽お出ましいただいた「つなぎ役」でした。『サステナ』の最初の見本誌第0号をつくるにあたって、サステナビリティを象徴するのにぴったりのキャラクターがなかなか考えられず困っていました。それで、苦しいに、「第0号だから仮のものでいいから、とりあえず何かつくって」と、デザイナーに頼んだのです。「すぐ本物のキャラクターに主役を譲るので、あまり強烈な印象を与えたり、何か意味がありげでなくて、要するにホニャララな雰囲気だね」と、おおよそのわからない注文で、それに応えて、出てきてくれたのがこのサステナくんだったのです。

というわけで、1回きりで退場という悲しい運命のもとに生まれてきたのですが、「ボクはつなぎ役だ」という謙虚さがよかったですでしょうか、好感をもってくださる方が多く、「サステナくんに会いたい」という声も聞こえてきたりして、第1号も第2号も引き続きサステナくんの活躍となりました。

こうなってくると、もしかしたら、サステナくんこそがサステナビリティの姿としてぴったりかもしれないという気にもなってきます。「サステナビリティ学は多面的に定義される」と『サステナ』第0号に書いてありましたが、地球社会のサステナビリティは、一つの価値観、一つの基準によって実現されるものではないでしょう。多種類の生物がいてこそ生態系が安定するように、さまざまな人々の暮らし方があって初めて人間社会も安定するのでしょうか。サステナくんの大らかなポーズは、そんな多様なものをゆったりと包み込んでくれそうな雰囲気があります。

さて、サステナくんの最新ポーズです。懸命に頑張って「どここいしょ」と腰を伸ばして額の汗をぬぐっているのか、それとも思慮深いまなざしではるか遠くを見ているのか、それとも……



東京大学産学連携協議会の紹介

設立

「東京大学産学連携協議会」は、産学連携に関わる全学的共通基盤整備の一環として、2005年1月17日に、日本経済団体連合会のご協力を得て、総長統括の全学協議会として設立致しました。産学連携協議会は産業界と東京大学の双方向性の産学連携推進のプラットフォームであり、産業界と東京大学とが社会に寄与する価値を、多様な形態で創造するための重要な基盤です。設立時は会員350名(社)でスタートしましたが、現在の会員数は540社であり、長期的社会貢献の視点で、産業界と東京大学との関係を育成・成熟させることを目的としています。

定期活動

総会

総会は年に1度開催し、会員と東京大学総長、理事、部局長等が出席。総長、日本経団連からのご挨拶、産学連携本部長による活動報告等を行います。3年目にあたる本年度は、3月7日に経団連ホールで開催します。懇親会では、会員間の交流並びに産業界と東京大学との意見交換を図ります。

アドバイザリーボードミーティング

東京大学トップと日本を代表する経営者との交流・相互理解の推進を図り、その後の運営に反映させています。年2回の頻度で開催しており、第5回目は、3月7日の総会と同日開催します。

現在、産業界委員は6名であり、味の素(株)顧問の山野井昭雄氏、新日本石油(株)代表取締役会長の渡文明氏、住友商事(株)取締役会長の宮原賢次氏、(株)東芝取締役会長の岡村正氏、日本電信電話(株)代表取締役会長の和田紀夫氏、(株)三菱東京UFJ銀行取締役会長の三木繁光氏。(企業名五十音順)

産学連携委員会

東京大学教員と産業界CTO・開発企画部門長等との交流の場であり、東京大学との連携を前提にする産業界との産学連携についての情報交換を行っています。年2回の頻度で行っており、第4回目は2月28日に開催します。

UCR-ホットライン

経営層に近い会員連絡先宛電子メールによりピンポイントで東京大学の情報を発信するシステムを構築・実施しています。イベント情報を中心に2回/月の頻度で会員へ情報提供しています。

フラガ活動

産業界と東京大学研究者との交流を意図して企画・実施している公開の場です。UCR-ホットライン等で会員の方へ参加を呼びかけており、共同研究等の創出を期待していません。

科学技術交流フォーラム

学内研究者が研究成果を発表することによって「知」を発信する、産と学との出会いの場です。当該フォーラムを契機に、近未来の社会・経済にとって「解を出すべき課題」に対して、専門分野・産業界を横断したチームが形成され、産学連携活動を企画・実行して、その課題解決が図られることを目指しています。

提案会(常時発表者募集・随時開催)

産学連携によって研究成果・技術シーズを実用化し社会への還元を目指す意向のある学内の教員・研究者に対して、共同研究のパートナーとなる民間企業等の探索・発掘のお手伝いを行う企画「UCR シーズ実用化提案会」を実施しています。また、プロジェクトや研究会の提案を民間企業等に呼びかける「UCRプロジェクト提案会」の開催もしています。産学共同での政策提言をなさりたい場合は、「政策提言説明会」も開催します。ご希望の方はご連絡ください。

UCR-研究会

特定分野で、複数企業と学内研究者が意見交換を繰り返して産学連携の可能性を探る場です。必要に応じて小グループを形成しつつテーマの創出とチーム編成を行います。機密管理が必要になった段階でUCR-WG活動(複数企業版Proprius21)に移行し、適切なる機密保持の元に活動を続行して頂きます。

海外企業とのProprius21

サンマイクロシステムズと東京大学Proprius21を2006年4月から実施しています。現在三つのテーマに絞りこまれ、共同研究の可能性、研究計画を策定中です。



1月18日 Kim Jones氏(Vice President of Global Education, Government and Health Sciences, Sun Microsystems, inc)と小宮山総長とが歓談

◆ ◇ ◆ お知らせ ◆ ◇ ◆

◇「UCRシーズ実用化提案会」開催

テーマ 「高精度超音波ドップラ対地速度計」

日時 2月23日(金) 15~17時

場所 東京大学産学連携プラザ 2階大会議室

発表 芋生憲司助教授

/農学生命科学研究科 生物機械工学研究室

連絡先:産学連携本部(研究協力部 産学連携課)

電話:内線22857(外線03-5841-2857)

ホームページ:<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック

障害者・高齢者にこそ必要な科学技術

先端科学技術研究センターバリアフリー分野
リサーチフェロー 大河内 直之さん

全盲である私が東大先端研に着任して今年で5年目を迎える。今回は、現在取り組んでいる、盲ろう者の支援機器利用についてご紹介する。

盲ろう者は、視覚と聴覚に障害を併せ持つことから、テレビ、ラジオ、電話、ファックス、新聞といったメディアから全く情報を得ることができない。そのため、盲ろう者の情報処理には、通訳者と呼ばれる人的な支援が不可欠である。しかし、24時間通訳者の確保が難しいこと、プライバシーが守られないことなどから、人的

支援に加え電子機器による支援が注目されている。

東大先端研の福島智助教授は、全盲ろうの研究者であることから業務時間中勤務している通訳・介助者を介して、

周囲の人とコミュニケーションを取ったり、電話を利用したりしている。一方、パソコンや点字PDAを利用して、独力で論文を書いたり電子メールを利用したり、インターネットを閲覧したりすることができる。

このように、人的支援と機器の支援とをバランスよく利用することで、盲ろうであっても効率よく仕事をすることが可能である。しかし、福島助教授のようにこれら機器を利用できるようになるには、さまざまな工夫が必要である。それは、現在盲ろう者向けに開発された機器がほとんどなく、盲ろう者は視覚障害者向けに開発された機器の一部の機能を利用するしかないからである。したがって、盲ろう者のニーズを踏まえた機器の開発が切望されており、先端研でも複数の企業と協力しながら盲ろう者向け機器の研究を実施している。

科学技術は人類に大きな利便性をもたらした。しかし、その利便性はまだ平等に享受されているものとは言えない。特に、盲ろう者をはじめとした障害者や今後、数が増加する高齢者にとって、科学技術は命を守る、また人生の根幹を支える大きな存在となりえる。こうした事実を踏まえながら、科学技術の発展とユーザのニーズをつなげる研究を今後とも継続していきたいと考えている。

はじめの一步

バリアフリー支援室本郷支所主任
水谷 彰さん

「おはようございます!」と、学生さんとの元気な挨拶で1日が始まります。いつものありふれた光景ですが、ここまでの道のりはなかなか大変な日々でした。

思えば昨年4月、バリアフリー支援室本郷支所が開設されるまで、私は、「バリアフリー支援」、「障害をもつ人」、「学生さん」といった内容とは、無縁の事務を担当していました。正直、この場所へ着任した時、「自分にこの仕事が勤まるのだろうか?」という思いで一杯でした。

また、障害について、専門家との間に入って、「はたしてうまくやってゆけるのだろうか?」いう不安も常にありましたが、支援室での活動を通じて、「人と接することが大好き」だったのだなとあらためて実感しました。ありのままの素直な姿で接してみて、正確に状況を把握し、謙虚に試行錯誤を行って、最適な支援に繋ぐことが出来たらいいなと思いながら日々精進して行ければと考えております。

最初は、「小さな事」でも、誠意を持ってきちんと対応できれば、支援はきつうまくゆくはずですし、支援者の「信頼」も得られると思います。

もちろん、バリアフリー支援室だけでは、支援そのものに限界がありますので、各部局の支援実施担当者、大学を構成する人々の「気持ち」が一つになることが必要です。



また、それはこれからの「大学人」となる方々にとっても大事なことだと思います。

まだまだ、支援について、勉強しなければいけないことがたくさんありますが、確実に一步一步、進んでゆきたいです。そう、この支援室と共に…。

<東京大学バリアフリー支援室 連絡先> E-mail: spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

本郷支所(理学部旧1号館135号室): TEL 03-5841-1715 FAX 03-5841-1717

駒場支所(先端科学技術研究センター3号館503号室): TEL:03-5452-5067 FAX:03-5452-5068



WordにExcelの表を挿入する

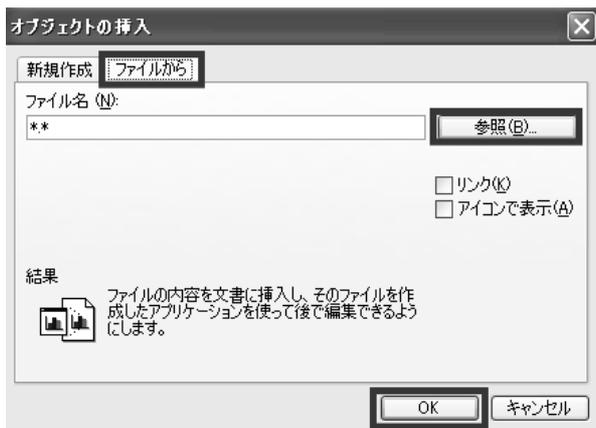
Wordで資料を作成する時・・・
 ・表を作成したいけど、何だかうまくできない。
 ・表を作成したけど修正に手間がかかって断念した。
 なんて事はありませんか？そんな時はエクセルで作成した表をワード文書に挿入すると便利です。

[Wordを開いて下さい。]

① メニューの [挿入] から [オブジェクト] をクリックします。



② [オブジェクトの挿入]画面が表示されたら、[ファイルから]タブに切り替えます。



③ [参照]を押して、挿入したいグラフの入っているエクセルファイルを選び、[OK]を押します。

挿入された表をダブルクリックすると、エクセル形式の表に変わります。この状態であれば、Excelと同じように表を編集したり、関数を設定したり、書式の色を変更したりできます。

「WordにExcelの表を挿入する・応用編」は情報課HPで公開中！
http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen4/pc_faq/index.html

PC講習会 火～金 13：30～16：30 開催中です！
 問合せ：総務部情報課運用管理チーム (内)22179

ワタシのオシゴト 第8回

Rings around the UT

史料編纂所 管理係
 吉富勇一郎 さん

目指すは史料のはらわた!?



こんにちは。史料編纂所管理係の吉富勇一郎です。

歴史学の発展のために編纂作業を行っている研究者を除いて支えるのが編纂所での我々事務の仕事です。日本の歴史を学ぶ世界中の人達の役に立てていると思うと非常にやりがいがあります。人体でいえば内臓のように、たとえ外部から見えずに目立たなくても必要不可欠な存在になりたいと思っています。

私の主担当は物品管理ですが、史料編纂所は小規模で人員も少ないので、それ以外にも色々な種類の仕事をさせていただく機会に恵まれています。初めて会計系の仕事をする私にとっては、多くのことを学べる

環境です。三十路を迎え何をすることも健康が一番だと実感したので、日中は事務室で物品の管理に、夜は御殿下のジム室で自分自身の健康管理にはげんでいます。

そして昼休みはグラウンドでサッカーに熱中しています。サッカーでも私生活でも決定力不足が課題です。私の歴史を変えるゴールの日はいつになることやら・・・



決定力ある先輩のゴールシーン

血液型：A型
 自分の性格：温厚
 出身地：横浜市

次回執筆者のご指名：香川明子さん
 関係：同期
 一言紹介：酔った私の相手をしてくれる心優しき女性です。



ご案内

鷗外の『雁』 上条はどこにあったのか？

広報センターには、文庫本を片手に小説に描かれた道順をたどって楽しめる方が、しばしば来館されます。

「古い話である。僕は偶然それが明治十三年の出来事だと云うことを記憶している。どうして年をはっきり覚えているかと云うと、その頃僕は東京大学の鉄門の真向いにあった、上条と云う下宿屋に、この話の主人公と壁一つ隔てた隣同士になって住んでいたからである。」

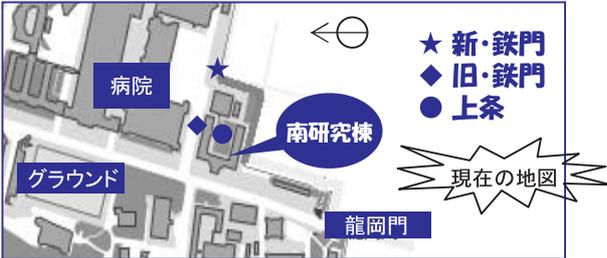
森鷗外『雁』の初めの一文です。今回は、鉄門前の下宿『上条』がどこにあったのかを探ってみようと思います。

はじめに、旧住所地図で鉄門前の住所を調べてみると、<龍岡町21番地>にあたります。どうやら『上条』はここにあったようです。ところが、気になることがあります。

『加賀殿再訪』（東京大学総合研究博物館）に、「明治44年3月、大学側は手狭になった敷地拡大の為、鉄門前の龍岡町21番地を購入する。」とあるのです。さらに、昨年再建された鉄門脇の銘版には、「鉄門は大正期に鉄門前の民有地が構内に取り込まれたため撤去された」と刻まれました。つまり、大正時代に大学用地拡張のため龍岡町21番地は構内に取り入れられ、これを機に鉄門も『上条』のあった地区も姿を消したことが分かりました（なお、『上条』が明治14年の火災により焼失したことは文中にあります）。では、現在の本郷キャンパスマップに、それぞれの位置を照らし合わせてみることにします。『上条』は病院の南研究棟の辺りに、鉄門は南研究棟北側スレスレの所に位置していたのではないかと思います（下図を参照）。

鷗外の妹・小金井喜美子さんは、小さい頃に時折訪ねた『上条』のことを「下宿ではいつも好んで鉄門の見える窓の際にいました。いろいろな人の出這入りが珍しいのです。」と回想しています（『鷗外の思い出』岩波書店）。当時医学部の正門だった鉄門には、どんな学生たちが行き交ったのでしょうか？ といえば、岡田や僕が歩いた道、訪ねた神社やお寺、お店など今に残るところもあります。そろそろ文学散歩の準備、始めてみてはいかがでしょうか？

<今回のお噺は、ときどき尋ねられる事柄であり、以前文京区立本郷図書館鷗外記念室に問い合わせ調べて戴いたことを基にしています>



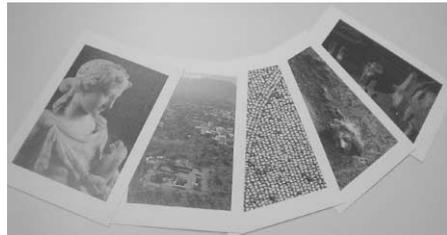
コミュニケーションセンターだより No.30

■ソンマ・ヴェスヴィアーナ発掘関連グッズ販売開始!!

東京大学では、平成14年より、イタリア共和国南部ヴェスヴィオ山北のソンマ・ヴェスヴィアーナに所在する、ローマ時代別荘遺跡を継続的に発掘調査しています。

■ポストカード

遺跡で発掘したものなどをオリジナルポストカードにしました。本学のこういった取り組みを少しでも近くに感じて頂ければと思っております。



- 販売価格：各80円（税込）全5種
ポストカードセットも販売しています。
- 販売価格：400円（税込）

■UTCCスタッフ紹介 ~Part3~

コミュニケーションセンター（UTCC）では、東大の学生が活躍しています。今後も少しずつ紹介できればと思っておりますのでよろしくお祈りします。励みになりますので、店頭で見かけた際はお声がけ下さい。



総合文化研究科
国際社会科学専攻
修士 2年
藤田 葵

全ての商品が東大オリジナルで、企画・開発・販売まですべてに学生が関わって運営するUTCCのあり方は、我々学生にとって産学連携を自ら体験することであり、そして大学という世界から自分を発信させていく基盤となっています。またUTCCでのお仕事を通して、大学内のことに詳しくなりました。その価値に改めて気付いています。そのひとつとして、もともと文学部日本史出身の私からは、国宝級に貴重な史料が残されている史料編纂所の蔵書の一環である、江戸期の本郷の姿をしのぶ絵図をご紹介します。

●お詫び●
前回の1351号でご紹介したスタッフの所属研究室に誤りがございました。深くお詫び申し上げます。正しくは下記の通りでございます。

(誤) 山下研究室
↓
(正) 下山研究室
(担当：コミュニケーションセンター 辻)



東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

The University of Tokyo
OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30
電話：03-5841-1039
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院情報学環

国際シンポジウム開催のお知らせ

東京大学大学院情報学環国際シンポジウム
「デジタル・コンテンツは大学を変えるのか？
ーデジタル時代の教育研究を考える日米会議ー」

デジタル・コンテンツは、21世紀の大学教育のあり方を変えつつあります。この国際シンポジウムでは、主にゲームに関わる大学教育について、南カリフォルニア大学とマサチューセッツ工科大学より2名を招き、米国における現状をお話いただき、本学からは情報学環が行ってきたコンテンツ人材養成等の取り組みを紹介します。

【プログラム】

日時：2月22日（木）13:00～17:00

会場：本郷キャンパス工学部2号館9階

情報学環プレゼンテーションルーム1（92B1/92B2）

講演：

Douglas Thomas（南カリフォルニア大学）

"What is New about New Media and Education ?:
Entertainment Studies for the 21st Century"

William Uricchio（マサチューセッツ工科大学）

"Comparativity as a Strategy for the Study of
Media in Transition"

馬場章（情報学環）

「日本におけるコンテンツ教育と研究ーゲーム教育
と研究を中心にー」

コメント：

相澤清晴（情報理工学系研究科）

パネルディスカッション：

司会：吉見俊哉（情報学環）

詳細については、下記ホームページ参照。

<http://content-gakubu.iii.u-tokyo.ac.jp/>

言語：日本語・英語（同時通訳）

申し込み：不要

参加費：無料

問い合わせ先：

大学院情報学環コンテンツ創造教育研究コア

E-mail：gakubu-info@iii.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

医学部附属病院

東京大学創立130周年記念事業公開シンポジウム 「東京大学臨床展開研究シンポジウム ーベンチからベッドサイドへ・そして社会へー」

本学ではトランスレーショナルリサーチ（TR）のあり方を全学的に検討しており、近く学内にTRセンター（仮称）を設置する予定です。

そこで、この度「東京大学臨床展開研究シンポジウム」を開催し、本学におけるTRの必要性、役割、意義、更に産官学連携のあり方についてディスカッションすること致しました。

発言者には、小宮山宏総長、永井良三教授（医学部附属病院長）、山下直秀教授（医科学研究所附属病院長）、油谷浩幸教授（先端科学技術研究センター）、渡邊俊樹教授（新領域創成科学研究科）、長野哲雄教授（薬学系研究科）、松本洋一郎教授（工学系研究科長）などを予定しています。

講演後はポスター展示会場で、各研究グループの研究成果を発表致します。臨床応用を目指す研究にご関心をお持ちの皆様には、是非奮って参加登録をして頂きますようお願い申し上げます。

日時：3月2日（金）14:00～17:30

会場：大講堂（安田講堂）

内容：講演、パネルディスカッション、
ポスターセッション

申込方法：

参加希望の方は、下記ホームページよりお申込み下さい。

<http://www.rinshoutenkai.org/>

問い合わせ先：

医学部附属病院総務課総務企画チーム庶務担当

TEL:03-5800-8605 内線:32203

E-mail: byoinsyomu@adm.h.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

医学部附属病院

第3回 高齢者教室のお知らせ

内容：

老後を迎えるにあたって起こり得る様々な問題について、老年病の各専門分野の方々にお話をうかがいます。

対象：どなたでもご自由です。(年齢制限はありません)

参加費：無料

申し込み：不要(当日直接会場へいらしてください)

会場：東大病院 入院棟A 15階大会議室

開催日：3月28日から6月13日までの毎週水曜日(4/4と4/11はお休みですのでご注意ください)

時間：14時から15時まで

【開催テーマ】

3月28日 大内教授

「老年病科、抗加齢医学(アンチエイジング)とは」

4月18日 東先生

「転倒・骨折、骨粗鬆症」

4月25日 井上師長

「床ずれ(褥瘡)の予防と実際」

5月2日 山口(潔)先生

「物忘れ・認知症、うつ」

5月9日 五十嵐先生

「高齢者の医療制度、介護保険サービス」

5月16日 柳澤マネージャ

「介護の予防と実際」

5月23日 野村先生

「高齢者の糖尿病」

5月30日 小島先生

「高齢者の高血圧」

6月6日 山本先生

「食事のむせ込み・誤嚥性肺炎」

6月13日 秋下助教授

「病院・薬とうまく付き合うために」

共催：東京大学医師会

問い合わせ先：

東大病院老年病科 03-5800-8652 担当 野村



募集

ナノバイオ・インテグレーション拠点

若手研究費補助金の公募

ナノバイオ・インテグレーション研究拠点では、将来のナノバイオ研究を担う若手研究者の育成を目的として、東京大学に所属している研究者を対象に、研究費補助金制度を設けました。

応募資格者

- ・東京大学に所属し、当該研究機関において研究活動を行うことを職務に含む者であり、ナノバイオ・インテグレーション研究拠点の課題研究代表者(分担者・共同研究者含む)以外であること。なお、学生からの応募は認めない。

- ・研究代表者は、研究計画の遂行(研究成果のとりまとめを含む)に関して全ての責任を持つ研究者である。

- ・外国出張その他の理由により、長期にわたって研究代表者の責任を果たせなくなる場合には、研究代表者になることを避けること。

応募期間

1月15日(月)～3月20日(火)

応募要領

http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBI/whatsnew/public_advertisement070115.html

問い合わせ先

東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点事務局

リサーチフェロー 記村 隆章

Tel: 03-5841-1656 (内線 21656)

Fax: 03-5841-1510 (内線 21510)

E-mail: kimura@cnbi.t.u-tokyo.ac.jp

募集

医学部附属病院

2007年度ボランティア募集

患者さんにとって心休まる温かいところにするためあなたの「やさしさ」を求めています。

東大病院にここボランティアの活動内容

- 受付のお手伝い
- 患者さんのご案内
- 図書の貸し出し
- 院内学級の送迎
- 子どもの遊び相手
- その他

活動日 月～金（祝日を除く）

- ① 8:30～11:30
- ② 9:30～12:30
- ③ 12:00～15:00

これらの時間帯の中から、あなたのご都合に合わせてお選びいただけます。

ボランティア応募資格

- ★1ヵ月2回（6時間）以上活動ができ、長期間継続できる方
- ★18歳以上の方（ただし高校生は除く）

新規活動説明会・面談 5月14日（月）13:30～
5月23日（水）16:30～

資料請求期間 3月1日（木）～4月20日（金）
応募締切 5月7日（月）

活動開始は6月以降を予定しております。

問い合わせ先

医学部附属病院 医事課 03-3815-5411（代表）
担当者 石山、三瓶 内線 32615
小野澤（ボランティアコーディネーター）
内線 34286

<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/volunteer/index.html>

E-mail: volunteer@adm.h.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

お知らせ

退職教員の最終講義

学内広報では、1月から3月の間に発行される各号において、今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義のお知らせを掲載します。

大学院工学系研究科・工学部

鎌田 元康 教授

（建築学専攻 建築環境学講座）

日時：2月28日（水）15:00～17:00

会場：工学部1号館15号教室

演題：「空気・水環境と建築設備」

藤原 毅夫 教授

（物理工学専攻 工業力学講座）

日時：2月28日（水）16:00～17:00

会場：工学部6号館2階63号講義室

演題：「固体電子構造理論について」

長澤 泰 教授

（建築学専攻）

日時：3月9日（金）15:00～17:00

会場：工学部1号館15号教室

演題：「新しい建築計画への試み：地理的環境としての建築」

大学院理学系研究科・理学部

奈良坂 紘一 教授

（化学専攻 有機化学講座 有機合成化学研究室）

日時：3月15日（木）14:00～16:00

会場：化学本館5階講堂

演題：「フラスコからのメッセージ」

梅澤 喜夫 教授

（化学専攻 無機・分析化学講座 分析化学研究室）

日時：3月16日（金）14:00～16:00

会場：化学本館5階講堂

演題：「見えないものを見えるようにする」

大学院総合文化研究科・教養学部

浅島 誠 教授

（広域科学専攻 生命環境系）

日時：3月3日（土）13:30～15:00

会場：駒場 I キャンパス教養学部900番教室
演題：「動物の発生の仕組みを探し続けて四十年」

植田 直志 助教授

(広域科学専攻 関連基礎科学系)
日時：3月6日(火) 16:20~17:20
会場：駒場 I キャンパス教養学部18号館 1階ホール
演題：「分子線と磁気共鳴」

川合 慧 教授

(広域科学専攻 広域システム科学系)
日時：3月13日(火) 15:30~17:00
会場：駒場 I キャンパス教養学部18号館ホール
演題：「情報の自由な翼」

大学院新領域創成科学研究科

大森 博雄 教授

(自然環境学専攻・自然環境構造学分野)
日時：3月16日(金) 15:00~17:00
会場：柏キャンパス・
新領域創成科学研究科環境棟 1階・F Sホール
演題：「自然環境学の課題と展望」

医科学研究所

高津 聖志 教授

(感染・免疫部門 免疫調節分野)
日時：3月9日(金) 14:15~14:55
会場：医科学研究所 1号館講堂
演題：「免疫系の調節機序と分子標的に魅せられて：
IL-5の研究から学んだこと」

竹縄 忠臣 教授

(癌・細胞増殖部門 腫瘍分子医学分野)
日時：3月9日(金) 15:10~15:50
会場：医科学研究所 1号館講堂
演題：「細胞内情報伝達研究の黎明期と隆盛期に
立ち会って」

澁谷 正史 教授

(癌・細胞増殖部門 腫瘍抑制分野)
日時：3月9日(金) 16:10~16:50
会場：医科学研究所 1号館講堂
演題：「血管新生因子の癌と炎症への関与」

御子柴 克彦 教授

(基礎医科学部門 脳神経発生・分化分野)
日時：3月9日(金) 17:05~17:45
会場：医科学研究所 1号館講堂
演題：「中枢神経系の発生・分化機構の解析」

物性研究所

高橋 實 教授

(物性理論研究部門)
日時：3月7日(水) 13:20~15:15
会場：物性研究所本館 6階大講義室 (A632)
演題：「量子統計の進歩
—理論研究40年を振り返って—」

高山 一 教授

(附属物質設計評価施設)
日時：3月7日(水) 15:30~17:25
会場：物性研究所本館 6階大講義室 (A632)
演題：「スピングラスと計算物性物理」

海洋研究所

石井 輝秋 助教授

(海洋底科学部門・海洋底テクトニクス分野)
日時：3月15日(木) 13:00~14:00
会場：海洋研究所講堂
演題：「海洋底の岩石」

寺崎 誠 教授

(国際沿岸海洋研究センター・沿岸生態分野)
日時：3月15日(木) 14:00~15:00
会場：海洋研究所講堂
演題：「私のプランクトン研究」

太田 秀 教授

(海洋生態系動態部門・底生生物分野)
日時：3月15日(木) 15:30~16:30
会場：海洋研究所講堂
演題：「奈落曼荼羅紀行」

小池 勲夫 教授

(海洋化学部門・生元素動態分野)
日時：3月15日(木) 16:30~17:30
会場：海洋研究所講堂
演題：「海洋における生元素循環と生物活動」

アイソトープ総合センター

巻出 義紘 教授

(アイソトープ総合センター長)
日時：3月9日(金) 15:00~17:00
会場：アイソトープ総合センター大講義室
演題：「アイソトープ —その研究から管理まで—」

お知らせ

130周年記念事業事務局

130周年記念シンボルマークを名刺に使いませんか？

現在、大学で調達している教職員の名刺につきましては、これまで、3パターンの様式から選ぶことになっておりましたが、今回の作成申込から130周年記念のシンボルマークを使用した名刺様式（図参照）を選ぶことができるようになりました。希望される方は、調達グループからの通知がありましたらお申込ください。

総務部総務課
※※チーム
チームリーダー

東大太郎
TODAI, Taro

〒113-8654
東京都文京区本郷7-3-1
Tel: 03-5841-*****
Fax: 03-5841-*****
E-mail: ****@adm. u-tokyo. ac. jp



総務部総務課
※※チーム
チームリーダー

東大花子
TODAI, Hanako

東京都文京区本郷7-3-1 〒113-8654
Tel: 03-5841-*****
Fax: 03-5841-*****
E-mail: ****@adm. u-tokyo. ac. jp

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第500（2月7日）号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第500（2月7日）号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

<500号記念特集>

木畑洋一：四〇年前の学部報——五〇〇号に寄せて

三谷 博：駒場の歴史を遡ると

宮本久雄：教養学部報

浅島 誠：教養学部報と私

湯浅博雄：教養学部報とわたし

渡會公治：文化財学部報

河野俊丈：幾多の分野の引き出し

坂梨隆三：学部報とわたし

斎藤正彦：学部報とわたし

教養学部報の半世紀1951～2007

1号～100号 <1951年4月～1961年10月>

101号～200号 <1961年11月～1973年11月>

201号～300号 <1973年12月～1984年12月>

301号～499号 <1985年1月～2007年1月>

馬淵一誠：駒場に暮らして

若杉桂輔：2006年ノーベル化学賞：遺伝情報の「転写」研究

橋本毅彦：空気の流れの歴史を探る

<駒場をあとに>

石井 明：線路脇の孤柳に再見（ツァイジエン）！

山影 進：存在感ある寡黙——石井明先生の後ろ姿

川合 慧：駒場をあとに

玉井哲雄：川合先生を送る

跡見順子：丸ごとだから生きる！ やってみて、言葉にして分かる『人間』が成長する Arts & Sciencesを育む駒場への限りない夢

八田秀雄：宇宙的先生

<時に沿って>

吉田丈人：はじめての駒場

お知らせ

学生部

第53回東京地区国公立大学連合文化会美術展 (国公立展)のご案内

都内の国立大学11校の美術系サークルの作品が一同に集まる展覧会「東京地区国公立大学文化会美術展 都内国立大学11校美術部合同展」(国公立展)が今年は、以下の日程にて開催されます。

この美術展は、実施までおよそ1年をかけて学生主体で企画を行うもので、テーマに基づく各大学の共同作品等、多種多様な作品が出展され、学生間の交流、活動意欲を刺激する場となっています。

本学からは毎年、美術サークル(本学届出学生団体)が参加しています。今年は、東京工業大学が当番校となり、準備を進めています。是非、この機会に学生達の作品をご覧ください。

日時：2月23日(金)～2月28日(水)
23日 12:00～18:30(入館18:00まで)
24～27日 10:00～18:30(入館18:00まで)
28日 10:00～16:30(入館16:00まで)

場所：O美術館(品川区大崎1-6-2)

入展料：無料

参加大学：東京大学、お茶の水女子大学、
電気通信大学、東京医科歯科大学、
東京海洋大学、東京外国語大学、一橋大学、
東京農工大学、東京学芸大学、
首都大学東京、東京工業大学

H P :

<http://www.gakumu.titech.ac.jp/gakuseisien/life/kokurituten/index.html>



【本件に関する問合せ先】

学生部学生課学生生活チーム
大八木・宮内(内：22529・22514)

事務連絡

人事異動(教員)

発令日、部局、職、氏名(五十音)順

発令年月日	氏名	異動内容	旧(現)職等
(退職)			
19.1.31	山口 猛央	辞職(東京工業大学資源化学研究所教授)	大学院工学系研究科助教授
19.1.31	中村 哲也	辞職	医科学研究所附属病院助教授
(採用)			
19.1.16	久保田 純	大学院工学系研究科助教授	東京工業大学資源化学研究所助手
(昇任)			
19.1.16	組頭 広志	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
19.1.16	石橋 整司	大学院農学生命科学研究科附属演習林教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林助教授
19.2.1	渡邊 洋一	大学院医学系研究科助教授	大学院医学系研究科講師
19.2.1	藤井 輝夫	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター教授	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター助教授

* 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
食の安全研究センター設立記念シンポジウム 「食の安全を担う科学研究の新たな展開」	2月21日(水) 2月22日(木) 10:00~	農学部 弥生講堂 一条ホール	大学院農学生命科学研究科 熊谷進 TEL/FAX 03-5841-5469 http://park.its.u-tokyo.ac.jp/bokujo/ggp/event/070221-22.html E-mail: askuma@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
情報学環国際シンポジウム 「デジタル・コンテンツは大学を変えるのか?」 ーデジタル時代の教育研究を考える日米会議ー ※20ページ参照	2月22日(木) 13:00~	本郷キャンパス工学部2号館9階 情報学環プレゼンテーションルーム1 (92B1/92B2)	大学院情報学環コンテンツ創造教育研究コア http://content-gakubu.iii.u-tokyo.ac.jp/ E-mail: gakubu-info@iii.u-tokyo.ac.jp
2006年度 GIS講習会	2月23日(金) 10:00~	柏キャンパス総合研究棟 4階470号室 (4センター共有会議室)	空間情報科学研究センターGIS講習会 担当 古橋 http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/training/ E-mail: training@csis.u-tokyo.ac.jp
第37回ビジネスローセンター公開講座 演題:未定 講師:小川洋(内閣官房知的財産戦略推進事務局長)	3月1日(木) 13:30~	法学政治学系総合教育棟 (通称:法科大学院ガラス棟)	東京大学ビジネスローセンター TEL: 03-5805-7298 FAX: 03-5805-7143 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7eb1c/
熱・流体・エネルギーシステム高度計算科学 国際シンポジウム	3月1日(木) 2日(金)	浅野キャンパス 武田先端知ビル 武田ホール	21世紀COE機械システム・イノベーション事務室 http://www.mechasys.jp/activity/index.html TEL/FAX: 03-5841-7437
東京大学臨床展開研究シンポジウム ーベンチからベッドサイドへ・そして社会へー ※20ページ参照	3月2日(金) 14:00~	安田講堂	附属病院総務課総務企画チーム 庶務担当 TEL: 03-5800-8605 FAX: 03-5800-8725 E-mail: byoinsyomu@adm.h.u-tokyo.ac.jp
ワークショップ「東アジア銭貨流通の再検討」	3月2日(金) ~3日(土)	2日 山上会館002号室(地階) 3日 工学部8号館736号室	東洋文化研究所 黒田明伸 E-mail: kuroda@ioc.u-tokyo.ac.jp http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
東文研セミナー 「インド学研究と写本」	3月12日(月) 14:00~	東洋文化研究所会議室 (工学部8号館7階)	東洋文化研究所 永ノ尾信悟 E-mail: seino@ioc.u-tokyo.ac.jp http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
東文研第6回定例研究会 「帰属カテゴリ、ワード・ポリティクス、リアリテイ~現代ネパールにおける社会生活の民族誌の為のメモランダム」	3月15日(木) 14:00~	東洋文化研究所会議室 (工学部8号館7階)	東洋文化研究所 研究企画委員会 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
社会科学研究所 現代日本研究会 Non-Nuclear Weapons States and Nuclear Proliferation	3月20日(火) 18:00~	赤門総合研究棟5階 549号室	http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/cjg/ Minako Sato E-mail: satom@iss.u-tokyo.ac.jp
生産技術研究所 計測技術開発センター公開シンポジウム 「化学物質汚染に関する計測と対策」	3月23日(金) 13:30~	生産技術研究所 An棟2階コンベンションホール	生産技術研究所 計測技術開発センター http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/tatsuma/symp3.html
海外先進教育実践支援プログラム 国際シンポジウム 国際標準の学部初年次教育実現へ向けて ー教員・職員・学生の新しい連携の形ー	3月26日(月) 13:00~	駒場キャンパス18号館ホール	教養教育開発機構 TEL:03-5454-6660 http://www.komed.c.u-tokyo.ac.jp/miraipro/20070326.pdf
文科省・女子中高生理系進路選択支援事業 白鳳丸見学会	3月27日(火)、 28日(水) 10:00~	東京 晴海埠頭「白鳳丸」船上 ならびに晴海客船ターミナルホ ール	海洋研究所 URL:http://www.ori-u- tokyo.ac.jp/project/shingaku/hakuhoumaru.html
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
印刷博物館・東京大学大学院情報学環 共催企画展示 モード・オブ・ザ・ウォー 東京大学大学院情報学環所蔵 第一次世界大戦期プロ パガンダ・ポスター コレクションより ※1351号参照	1月20日(土) ~3月25日(日) 休館日:毎週水曜日 開館時間:10:00~ 18:00 (入場は17:30まで)	印刷博物館	印刷博物館 TEL: 03-5840-2300 (代表) 印刷博物館ホームページ: http://www.printing-museum.org/
Wakeland教授によるMolecular Genetics (分子遺伝学)の講義シリーズ(全6回)	2/21、2/26、3/14、19、 28、4/11の12:00~ 13:00	東大病院または研究教育棟の会 議室	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/ 疾患生命工学センター 分子病態医学 宮崎徹 TEL: 03-5841-1436 E-mail: tm@m.u-tokyo.ac.jp
第53回東京地区国立大学連合文化会美術展 (国立立展) ※25ページ参照	2月23日(金) ~2月28日(水)	O美術館(品川区大崎1-6-2)	http://www.gakumu.titech.ac.jp/gakuseisien/life/koku rituten/index.html 学生部学生課学生生活チーム 大八木・宮内(内:22529・22514)
第3回 高齢者教室 (老後を迎えるにあたって起こり得る様々な問題につ いての、老年病の各専門分野の方々の講演) ※21ページ参照	3月28日から6月13日 までの毎週水曜日 (4/4と4/11は休み) 14:00~	東大病院 入院棟A 15階大会議室	東大病院老年病科 TEL: 03-5800-8652 担当 野村



ご意見・ご感想投稿大募集!

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能ですが、連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

<投稿先メールアドレス>

kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

<記入項目>

- ①氏名・所属
- ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
- ④タイトル(20字以内)
- ⑤本文(300字以内)

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください(⑤はなし)。

Contents

特集

- 02 UT試薬サイト、発進！
- 04 余裕資金運用
一国立大学法人化から3年間の歩みー

NEWS

一般ニュース

- 06 学生部
平成19年度外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる
- 06 環境安全本部
「防災シンポジウム」開催される
- 07 環境安全本部
「文化財防火デーに伴う消防演習」実施される
- 08 サステナビリティ学連携研究機構
国際シンポジウム・公開シンポジウム開催される

部局ニュース

- 10 大学院工学系研究科・工学部
東大・東工大共催博士課程学生交流セミナー開催
- 10 大学院情報理工学系研究科
実世界情報システムプロジェクト最終デモンストレーションを実施
- 11 大学院理学系研究科・理学部
ひらめき☆ときめきサイエンス
「熱帯植物の不思議をさぐる」開催される
- 12 総合研究博物館
『モバイルミュージアム』始動
- 12 東洋文化研究所
東洋文化研究所シンポジウム
第2回アジア古籍保全講演会を開催
- 13 生産技術研究所
「第4回東京大学学生発明コンテスト」開催される
- 14 東京大学ソナマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査団
「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元シンポジウムーアウグストゥスの別荘？または神域？ー」開催

キャンパスニュース

- 14 学生部
東京大学運動会航空部、関東大会にて初の個人優勝

コラム

- 15 さすてなTimes Vol.10
- 16 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.11

- 17 バリアフリーの現場から 第5回
- 18 PCサプリ Vol.3
- 18 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第8回
- 19 龍岡門横丁断 第12回
- 19 コミュニケーションセンターだより No.30

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 20 大学院情報学環
国際シンポジウム開催のお知らせ
- 20 医学部附属病院
「東京大学創立130周年記念事業」公開シンポジウム
「東京大学臨床展開研究シンポジウムーベンチからベッドサイドへ・そして社会へー」
- 21 医学部附属病院
第3回 高齢者教室のお知らせ

募集

- 21 ナノバイオ・インテグレーション拠点
若手研究費補助金の公募
- 22 医学部附属病院
2007年度ボランティア募集

お知らせ

- 22 退職教員の最終講義
- 24 130周年記念事業事務局
130周年記念シンボルマークを名刺に使いませんか？
- 24 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第500（2月7日）号の発行ー教員による、学生のための学内新聞ー
- 25 学生部
第53回東京地区国公立大学連合文化会美術展（国立立展）のご案内

25 人事異動（教員）

26 EVENT LIST

淡青評論

- 28 欣求奈落曼荼羅

◆表紙写真◆

関東学生グライダー競技会で離陸に備える
運動会航空部・尾松俊選手
(14ページに関連記事)

編集後記

昨年1月、学内広報をリニューアルする際に『UTカフェ』という読者投稿コーナーを作り、自由な意見・感想や『東大川柳』の募集を始めました（前ページの告知参照）。しかし、その後の投稿が少ないため『UTカフェ』は現在、開店休業状態となっています。【学内広報】はみんなで作るメディア。どうか皆さん、気軽にご意見や川柳をお寄せくださいね。（し）



七徳堂鬼瓦

欣求奈落曼荼羅

海洋研究所に奉職し、深海底の生物との対話を目指し、35年を闊した。映像機材で深海生物の生活を眺めようとスタートしたが、光と映像が機能しない大深度に住む生物の世界を、二次元虚像で理解できると信じたのは視覚と言語で世界を認識するヒトの都合であった。実物標本の機能形態や生活形と映像との照合を続け、個体レベル以上の生物現象を扱う生態、分類、進化学では種や生活の多様性が基本原理であると確信した。多様性の

カオスに埋没しつつ、その意義を問うことを楽しみに、いや語り部になろうと居直った。

よく「極限環境に生きるグロテスクな生物を調べているのですね。」と問われる。しかし、「深海は地球上の2/3を占める最も宏大な生活圏で、そこに住む深海生物こそ地球の主ですよ。また、その無機環境条件の変動幅は地球上最小で、実にマイルドな環境ですよ。」と答えている。厳しいのは暗黒・低温・高圧という3環境要因ではなく、餌資源の極端な制限である。深海生物の様々な適応現象は、無駄を廃する究極のノウハウと過疎を克服するためのものが多い。暗黒中の外貌は問題ではない。彼らは地球史とともに形態や生活スタイルの生存価を追求してきたのであり、外容はおのずと滲み出た風格なのだ。

超過疎社会では集団性・社会性は希薄である。ちかごろ本学でも流行するという種内競争—功利的業績評価主義からは距離をおくとしても、滅多にない邂逅の大部分が喰う・喰われる「一期一会の縁」であり、残りが配偶確保のチャンスという薄氷を踏む緊張感を持続する世界である。その一方では、「硫黄の燃えている火の池」たる深海の熱水噴出孔に「毒を生活の糧」とするパラダイスや、プレート沈み込み帯の天然ガス成金の社会—化学合成生態系—限られたエリート集団のぬくぬくとした社会の発見にも巡り合わせた。

定年を目前にして、常識を震撼される学の楽しみと、無限に豊かな生命の曼荼羅を見んとするものは、まず地獄から入れというダンテの勧めに共感を覚えるこの頃である。

太田 秀（海洋研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1352 2007年2月14日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>